

福岡県子どもの読書活動交流・研修会【筑豊】
兼 市町村社会教育・生涯学習関係職員等会議 事業報告

1 事業名 令和2年度 福岡県子どもの読書活動交流・研修会【筑豊】
兼 市町村社会教育・生涯学習関係職員等会議

2 期 日 令和2年11月16日（月）

3 参加者 38名

4 日 程

時 程	研 修 内 容
13:20	
13:40	受 付
13:50	開 会 行 事
14:00	研修1〈説明〉 「ちくほう式『一日一読』のすすめ！！」 筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 賀村 祐太
14:40	研修2〈実践発表・実演〉 「わたしたちのまちの読書活動 ～『ふるさと嘉麻』を愛する子どもの育成にむけて～」 嘉麻市教育委員会 生涯学習課 図書館係長 山本 博子 氏 嘉麻市立図書館 司 書 藤原 千晶 氏 嘉麻市図書ボランティア連絡協議会 代 表 金光 文香 氏 読書ボランティア 西田 淳子 氏
14:50	
15:20	研修3〈情報交流〉 「各市町村における『読書活動応援隊』の取組について」 筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 賀村 祐太
15:30	閉 会 行 事

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、家庭読書（うちどく）の大切さや具体的な取組方法について学ぶことを目的に、「ちくほう式『一日一読』のすすめ！！」と題した説明を動画の視聴により行いました。この「ちくほう式『一日一読』のすすめ！！」とは、「ち・く・ほ・う」を頭文字に読書の合言葉を設定し、うちどくを推進する取組です。参加者は、読み聞かせやうちどくのポイント、家族でうちどくを行っていく大切さについて学びました。

(2) 活動写真



「ちくほう」を頭文字にした読書の合言葉



グラフを用いた読書の効果の説明

(3) 参加者の声

- 読み聞かせのポイントやうちどくの本の選び方など参考にしていきたいと思いました。
- 毎年子どもの読書離れについて話を聞いています。どうすれば読書推進につながるのか、毎年色々考えられていることに頭が下がります。子どもたちに届いたらいいなと思います。
- 少しの時間を読書にあて、楽しみに変えていければ最高ですよね。家族で共有する時間、「うちどく」の大切さもよくわかりました。

研修2

(1) 内容

研修2では、公立図書館と学校図書館、ボランティア団体との連携した取組、読書ボランティアの活動の実際、地域の民話を生かした読み聞かせの実践について学ぶことができるように、嘉麻市の4名の方々による実践発表・実演を行いました。なお、感染予防の観点から、事前に動画を収録し、当日参加者がその動画を視聴する形式をとりました。

嘉麻市教育委員会生涯学習課山本係長からは、嘉麻市立図書館と嘉麻市子どもの読書活動推進計画の概要、福岡県子どもの読書活動推進事業の活用について説明がありました。次に、嘉麻市立図書館司書の藤原氏からは、図書館におけるイベントやブックトーク、朝の読書活動といった学校と連携した取組について説明がありました。また、嘉麻市図書ボランティア連絡協議会金光代表からは、団体の概要と読み聞かせをする際の思いなどについて説明がありました。同じく読書ボランティアの西田氏からは、嘉麻市稲築地域で日ごろ活動しているサークルの皆さんの御協力のもと、サークルで民話をもとに自作した大型紙芝居『黒田のまさめずもう』の読み聞かせの実演がありました。参加者は、自分たちの読書をとおした子どもの育成への思いを再確認したり、学校・行政・読書ボランティアの間で連携した取組や地域にまつわる民話を生かすなどの読書ボランティアの積極的な取組などを学んだりしました。

(2) 活動写真



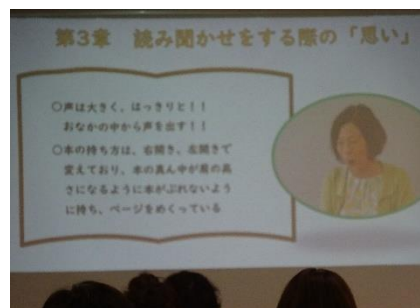
実践発表者の4名



嘉麻市立図書館の説明をする山本係長



藤原氏の説明動画を視聴する参加者



読み聞かせをする際の思いを語る金光代表



『黒田のまさめずもう』の表紙



読み聞かせの実演を聴く参加者

(3) 参加者の声

- 近隣の取組を聞くことで、自分たちの思いと同じことを再確認できてよかった。
- 嘉麻市の取組、行政と地域ボランティア、連携が取れていると感じました。手作りの紙芝居作成等これからの活動のヒントになりました。
- 「地域に伝わる話を子どもたちに伝えていく」ということも大切だと気づかされました。

研修3

(1) 内容

研修3では、各市町村における読書推進の現状を知り、今後の読書推進に向けた活動や事業の参考とすることができるように、各市町村における『読書活動応援隊』の取組について情報交流を行いました。

参加者は、研修2における実践発表をもとに、発表者に対して民話をもとにした大型絵本の制作やブックトークの実施に関する質問をしたり、自分の地域で行っている民話の読み聞かせや読み語り（ストーリーテリング）などの紹介をしたりして、民話の作成など今後の活動への意欲につながりました。

(2) 活動写真



参加者からの質問に答える西田氏



日ごろの読書活動について紹介する参加者

(3) 参加者の声

- 各地区の活動を知ることができ、大変に勉強になりました。ブックトークの流れも参考にさせていただきます。
- 各世帯に配布している、ふるさとを題材に物語を作った「いなつきのかっぱの民話」の説明や絵本は読むのではなく、語るものと言った方の話は参考になりました。
- それぞれの地域で、それぞれの活動があることを知れたし、続けていく活力にもなりました。新型コロナ禍で思うようにならない中で知恵をしぼり、前に進んでいきたいです。

6 全体をとおして

今回の研修会の目的は、子どもの読書活動の必要性と効果について認識するとともに、子どもの読書習慣の定着に向けた取組の充実を図る機会とすることでした。

参加者からは、今回の研修で「ボランティア団体、学校図書館、行政等のより一層の連携など、内容等において考えていきたいです。」「保護者に絵本の読み聞かせや読書の大切さを話すときの参考になりました。」「現在活動が休止状態ですが、活動をされているサークルがあることを知り、私たちが再開できる方法を探して再開したいと思いました。」などの感想がありました。このことから、参加者は、読書活動の推進の必要性や方法について学ぶことができ、民話の作成など地域の特色を生かしたり、学校図書館と公立図書館と読書ボランティア等が連携を図ったりしながら取組を進めるきっかけづくりにつながりました。

7 その他

事後アンケートにおいて、参加者から「移動図書館の具体的なレンタルシステムが知りたいです。」という質問がありました。後日、嘉麻市立図書館から次のとおり回答をいただきましたので、ここで紹介します。

【移動図書館車（てんとう虫号）の運行について】

- 本や雑誌等、約2,500冊の資料を載せ、市内の各施設（小学校、保育園、保育所、公民館）などの「ステーション」41か所を巡回し、貸出を行っています。
- 移動図書館車には、司書1名、運転手1名が乗車します。
- 運行日は、毎月第1・2水曜日、第1木曜日、第2金曜日、第2・3土曜日、第1・2日曜日です。